

平成 27年 4月 16日 00217号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】

窓ガラス越しのけいこ風景 ~道場3を2階通路窓越しに~

「窓ガラス越しのけいこ風景」第2回目は、北見市武道館の2階に設置された、道場3の練習風景を紹介します。程よくなだらかな8×3の階段と2つの踊り場で構成され階段を上りきった正面が道場3になります。

主に「空手」や「居合道」が行われ、時には太極拳も利用しています。この度は、通路側の大きな窓ガラス越しに撮影させてもらいました。毎週火曜日と金曜日の夜に北見空手協会の稽古が行われています。奥に見える2人の姿は、大きな鏡を通し見えているものです。その上には間接照明が施されています。昼間は、天窓から光が入り自然照明となります。



連載 「武道宝鑑」第2弾 磯貝 一 <柔道指導の心得>

二、指導上に心得べきこと

○個性の尊重3

かかる場合、こういう修行者^{しゆぎやうしや}に対し、無理に、早くから本筋^{ほんすじ}に入れようとする^{かえ}と却^{かえ}って其人^{とくちやう}の特徴^{とくちやう}を失うことになる。指導者の注意^{ちゆうい}すべきはこの点である。たとえば同じ技^{てい}にしても、人^{ひと}によっていろいろの様式^{やうしき}があり、稽古^{けいこ}の上にもさまさまの態度^{たいど}があるが、最初^{さいしゆ}からこれを矯^{かんぜん}めて完全^{てんぜん}なものにしようとすると、その人^{ひと}の特徴^{とくちやう}は萎靡^{まいり}してすふ。故^{ゆゑ}に、その特徴^{とくちやう}とも云^いうべき点^{てん}は、悪^{あく}く不正^{ふせい}なものでない限り、それを十分^{ぶんぶん}に伸ば^{のば}して行き、適^{てき}当^{とう}な時期^{じき}を見て、これを正^{ただ}しく指導^{しどう}しなければならぬ。不思議^{ふしぎ}なのは、大成^{たいせい}する士^しに限^{かぎ}って大抵^{たいだい}最初^{さいしゆ}から円満^{えんまん}な発達^{はつたつ}は少^{すく}ないもので、なぜか人^{ひと}の違^{ちが}った特徴^{とくちやう}を持つ^もっているもの、最初^{さいしゆ}から本筋^{ほんすじ}であるものは、そのま^ま、勉^{つと}めて怠^{おこた}らねば精妙^{しやうめう}に達^たし得^える譯^{わけ}であるが、何^{なに}うい^いうものか、か^かゝる人^{ひと}は概^{たいてい}ね鍛錬^{たんれん}が足^{たり}らずに終^おわるとい^いうよ^うな傾^{かた}向^{こう}を持^もち易^{やす}く、却^{かえ}って最初^{さいしゆ}、偏^{へん}った傾^{かた}向^{こう}を持^もった人^{ひと}の方が、百^{ひゃく}錬^{れん}萬^{まん}鍛^{たい}して、ついに圓熟^{えんじよく}の境^{きやう}に入^いるものである。併^ひし、茲^{こゝ}に考^かうべきは、かかる特徴^{とくちやう}のある修行者^{しゆぎやうしや}は、ややもすれば自^{おの}己^のの技^{てい}が相^あ手^てを倒^たし得^えるとい^いうよ^うな考^かえに囚^{とら}われて、いつまでも無理^{無理}を通^とすとい^いうよ^うなけいこうを持^もち易^{やす}いことである。茲^{こゝ}に指導^{しどう}の必要^{ひつやう}が生^はじてくる。即^{すなは}ち前者^{ぜんしや}に対しては、小成^{せうせい}に満足^{まんぞく}せしめず、あくまでも勇猛^{ゆうめう}心^{しん}を振^ふ起^{おこ}させ、蘊奥^{うんおく}に到^{たう}達^{たつ}せしめねばならぬし、後^{のち}者^{しや}に対しては適^{てき}当^{とう}な機^き会^{かい}を失^しわせず本筋^{ほんすじ}を悟^{さと}らしむよう指導^{しどう}しなければならぬ。

勿^な論^{ろん}、以上^{いじやう}のことと雖^{いへど}も、柔道^{じゆうだう}修行^{しゆぎやう}上^{じやう}の原^{げん}則^{そく}を無^む視^ししてもよ^いいとい^いうものではなく、修行^{しゆぎやう}上^{じやう}通^{つう}有^{ゆう}の原^{げん}則^{そく}の上^{じやう}に立^たつて、以上^{いじやう}のよ^うな指導^{しどう}方法^{ほうほう}をとるとい^いうことである。つづく